

第12回 日本健康・スポーツ教育学会 学術大会 プログラム 令和8年3月8日(日)

統一テーマ「健康・スポーツ・教育の連携による幼少年期からの生きがい創り」

メインテーマ「Well-being 向上教育の推進」

| 時刻 | メイン会場 | | | | サブ会場 | | |
|----------------------|---|--|---|--|--|--|------------|
| 9:00～ 10:00 準備 | 記念館1階・2階 A会場(2階 講堂) Well-being 領域 | 3号館 2階 B会場(2-1 教室) 教育・健康療育 | 3号館 2階 C会場(2-2 教室) 体育・スポーツ領域 | 記念館1階 D会場(小体育館) 幼体の参加者中心 | 3号館 2階 | 本館 2階 | 記念館 1階 |
| 10:00～ 10:45 | 受付(記念館1階 エントランス) | ※クロークは、ロビーや教室等が広いため、場所を決めずに各自で持ち歩く | | | 座長・ 演者 打合せ 室 (選択 4 教室) 試写 室 (イングリ ッシュ ルーム) | 特 別 控 室 (特別 会 議 室) | 食 堂 |
| 10:45 ～ 11:20 | 理事長挨拶 柴岡 三千夫 理事長 大会長講演 「Well-being 向上教育の推進～ 前向きな年齢の重ね方に視点を当 てて～」 柴岡 信一郎 大会長 座長 大津 一義 | | | | | | |
| 11:20 ～ 12:10 | 「Well-being 向上 ～新たな 労働観にいかに向き合うか～」 講演者 平山弘 (阪南大学学長) 座長 柴岡信一郎 | | | | | | |
| 12:10～ 13:15 | 昼食 | | | | | | |
| 13:15 ～ 13:55 | ワークショップ 1 2025 デフリンピックが学生のウェル ビーイングにもたらす影響 ○角田 弘子 | ワークショップ 2 リスキリングの意義と効用 更なる well-being を目指して 一保育士・放課後児童支援員 資 格 取 得 を 中 心 に ○平山 実 | ワークショップ 3 身体活動を取り入れた Life Skills 形成のための学習指導 過程の開発 ○山田 浩平 | 幼児の運動あそびを通した 生きる力の育成一心の健 康創りを中心として ○山口智之 ※小体育館で昼休みを通 して実施 | | | |
| 休憩 5 分 | | | | | | | |
| 14:00～ 14:40 | ワークショップ 4 Well-being 向上教育の実証的実践 ースポーツ先端科学に基づく AI を 活用した非認知能力の可視化ー ○山羽 教文 | 一般口頭発表 座長:橋本純一、尹 東燦 留学生「に対する ICT を活用 した学習指導教のあり方」 ○岩田忠彦 祖孫学と朱子学の相克ー庄 内藩儒水野元朗と加藤大式 の書状から ○瀬尾 邦雄 | 一般口頭発表 座長:武井克時、温井 一裕 東京都中学生の陸上競技の 記録の変遷に関する研究 ○温井 一裕 スポーツ教育による社会的老 朽化の予防と基本姿勢の再 構築 ○安藤 秀樹 | | | | |
| 休憩 5 分 | | | | | | | |
| 14:45 ～ 15:25 | ワークショップ 5 基本的自尊感情における共有体 験の意義を考えるーICT 活用の 可能性と身体性を視野にー ○近藤 卓 | 一般口頭発表・ 座長:横山典子、江口秀幸 老子の哲学思想 ○尹 東燦 | 一般口頭発表・ 座長:菰部正人、堀松英紀 高齢者の縦断的体力変化に ついてー茨城県利根町「きん とれ会」参加者の体力測定結 果からー ○菰部 正人 | | | | |
| 15:05 ～ 15:25 | | 冷戦研究の現代的意味につ いてーWell-being の視点か らの考察ー ○大久保 成道 | 総合型地域スポーツクラブの 現状と課題(第二報)ー東京都 羽村市「はむすば」を事例とし てー ○堀松英紀 | | | | |
| 15:25 ～ 15:45 | 一般口頭発表・ 座長:増澤将江 多世代間交流を通じた地域課題解 決とウェルビーイング ー「三世代食堂」の事例ー ○木戸 直美 | モンゴル・バイオトイレ実証実 験による行動的 QOL 向上の ための実践と課題 ○古澤 智也 | 部活動指導者の養成・普及の ための育成講座ー中学・高校 の部活動発展とウェルビーイ ング向上のためにー ○千葉 智久 | | | | |
| 休憩 5 分 | | | | | | | |
| 15:50～ 15:55 | 閉会の辞 鈴木 隆広 | | | | | | |
| 16:00 | 後片付け | | | | | | |